

**【第277号 紙面案内】**

第2～4面……第66回全国研究大会プログラム、開催校案内

第5～6面……理事会・常任理事会報告、学会役員・名誉会員一覧

第7～11面……第65回全国研究大会参加記・企業見学、各部会案内・活動報告

**第66回全国大会統一論題解題**

大会実行委員長 大平 義隆（北海学園大学）

## 統一論題「地域産業の発展と後継者育成マネジメント」

日本マネジメント学会第66回全国研究大会は北海道札幌市にあります北海学園大学で「地域産業の発展と後継者育成マネジメント」という統一論題のもとに、例年よりも少し遅い11月2日から4日の予定で開催させていただきます。

本大会のテーマである後継者の育成は、洋の東西を問わず、地域と都市部を問わず、常に極めて重要な問題であります。したがって、うまく後継者を育成することは経営者の最大の課題の一つであるばかりか、経営学に期待される重大な事項とも言えるでしょう。この問題には様々な視点や切り口があるでしょう。今回はこの後継者育成という一つのテーマを地域の立ち位置で研究者、経営者、経営者団体の3つの視点からアプローチします。

後継者問題といえば、後継者の不在、後継者への不満、後継の方法への不満などがすぐに頭に浮かびます。いわゆる跡取りが不在の場合、いても継ぐことを拒否した場合などは後継者が不在となります。うまく後継者に渡したとしても、従業員が後継者のやり方を受け入れがたく感じ、不満を持つかもしれません。また、矛盾する行動、すなわち、従業員には「自分の会社と思え」と言いつつ、「会社は一族のもの」とする経営者の考えや行動に従業員は不満を抱くかもしれません。これからますます重要となるテーマです。

したがって、いつもにも増して、研究報告、特別講演とこれに続くシンポジウムで充実した議論がなされねばなりません。そのためには、会員の皆様によるテーマへの強いコミットメントと議論への強い参加が不可欠です。一人でも多くの皆様がおいでになり議論を作り上げていただきたいと心から願っています。

懇親会では、北海道の食材をそろえ、皆様の英気を養う場を用意させていただきます。寒くなると北海道はさらに魅力的な食の国となります。集いの中で相互の理解さらに深めていただければと思います。

皆様のお越しをお待ちしております。

## 日本マネジメント学会第66回全国研究大会プログラム

### 統一論題 「地域産業の発展と後継者育成マネジメント」

#### 第1日 2012年11月2日(金)

13:45～15:45 企業見学 サッポロビール恵庭工場 ※先着25名  
 17:30～19:00 理事会(北海学園大学7号館6階 行動科学実験室1)

#### 第2日 2012年11月3日(土)

9:30～16:00 受付

10:00～10:05 開会挨拶 第66回全国研究大会実行委員会委員長 大平義隆

10:05～10:10 会長挨拶 日本マネジメント学会会長 加藤茂夫

10:10～15:40 統一論題報告(7号館2階 D20教室) (報告:40分 質疑:20分 計60分)

10:10～11:10 統一論題 1	
報告者	堀田友三郎(東海学園大学)
報告テーマ	食品サンプル産業の発展と後継者育成
コメンテーター	小嶋正稔(東洋大学)
司会者	小山 修(札幌大学)
11:20～12:20 統一論題 2	
報告者	細川 修(北海道中小企業家同友会 専務理事)
報告テーマ	北海道同友会の人材育成、後継者育成の取り組み
コメンテーター	佐藤一義(立正大学)
司会者	細野賢治(広島大学)

12:20～13:30 休憩(控室:7号館3階 D30教室)

13:30～14:30 統一論題 3	
報告者	内田 賢(東京学芸大学)
報告テーマ	地場産業と後継者育成
コメンテーター	亀倉正彦(名古屋商科大学)
司会者	森川信男(青山学院大学)
14:40～15:40 統一論題 4	
報告者	神野裕三(北海道オフィスマシン株式会社 代表取締役社長)
報告テーマ	後継者育成は、夢を承継する企業風土の育成から
コメンテーター	宮田則夫(宮田電工株式会社 会長)
司会者	早坂明彦(聖徳大学)
15:50～17:00 特別講演	
報告者	井上一郎(株式会社光合金製作所 代表取締役会長)
報告テーマ	ものづくり・人づくり・まちづくり
司会者	大平義隆(北海学園大学)

18:00～ 懇親会(札幌全日空ホテル)

## 第3日 2012年11月4日(日)

9:00

受付

9:30 ~ 11:30

統一論題パネルディスカッション (7号館2階 D 20 教室)

(パネリスト問題提起 各15分 指定討論者とのディスカッションおよび質疑:50分 総括:10分 計120分)

9:30 ~ 11:30	統一論題パネルディスカッション (7号館D 20 教室)
報告者	堀田友三郎 (東海学園大学) 神野裕三氏 (北海道オフィスマシン株式会社) 内田 賢 (東京学芸大学) 細川 修氏 (北海道中小企業家同友会)
指定討論者	小島正稔 (東洋大学) 佐藤一義 (立正大学) 亀倉正彦 (名古屋商科大学) 宮田則夫 (宮田電工株式会社)
コーディネーター	小椋康宏 (東洋大学)

11:30 ~ 12:25

休憩 (控室:7号館3階 D 30 教室)

12:25 ~ 15:20

自由論題報告・院生セッション報告 (各報告 報告:25分 コメントおよび質疑:15分 計40分)

韓国セッション報告

(各報告 報告:40分 計40分)

12:25 ~ 13:05	A会場 (自由論題) (7号館4階 D 40 教室)	B会場 (自由論題) (7号館4階 D 41 教室)	C会場 (自由論題) (7号館4階 D 42 教室)	D会場(韓国セッション) (7号館3階 D 31 教室)
報告者	中村久人 (東洋大学)	木村 弘 (広島修道大学)	木村敏夫 (流通科学大学)	Lee Limjung (Yonsei University)
報告テーマ	ポーングローバル企業経営の特徴に関する一考察	自動車部品サプライヤー・ネットワークの多面的分析視座	資本市場と監査人の責任	A study on the new paradigm of leadership - Centered on value of relation-oriented -
コメンテーター	今井雅和 (専修大学)	中村公一 (駒澤大学)	篠原 淳 (日本経済大学)	
司会者	水野基樹 (順天堂大学)	小川達也 (東京富士大学)	児玉敏一 (札幌学院大学)	手塚公登 (成城大学)
13:10 ~ 13:50	(自由論題)	(自由論題)	(自由論題)	(韓国セッション)
報告者	須田敏子 (青山学院大学)	柳川高行 (白鷗大学)	藤井辰朗 (東洋大学)	鄭ジョンム (建国大学)
報告テーマ	個別組織フィールドにおける外部環境・企業戦略・人事戦略の関連	キャリアの自己責任化と戦略的キャリアデザインの必要性と可能性ー経営学部における職業教育の在り方を求めてー	株式の所有構造による金庫株消却への影響の一考察	柳ソッキョン(東西大学) 韓国鉄鋼企業の競争戦略
コメンテーター	福田好裕 (和光大学)	櫻澤 仁 (文京学院大学)	太田三郎 (千葉商科大学)	
司会者	齋藤幹雄 (東北福祉大学)	石毛昭範 (拓殖大学)	大野和巳 (文京学院大学)	石井泰幸 (千葉商科大学)
13:55 ~ 14:35	(自由論題)	(院生セッション)	(院生セッション)	
報告者	武内龍二 (株式会社インテジ)	四宮夕香 (東洋大学大学院)	岩崎真之介 (広島大学大学院)	
報告テーマ	組織風土と欲動からみたモチベーション構造に関する一考察	わが国企業における女性従業員比率と企業業績の関係ー先行研究成果の比較・検討を中心としてー	青果物産地の競争構造とマーケティング戦略	
コメンテーター	松村洋平 (立正大学)	田口智子 (北翔大学短期大学部)	當間政義 (和光大学)	
司会者	萩原道雄 (萩原経営研究所)	池田玲子 (羽衣国際大学)	杉山三七男 (静岡産業大学)	
14:40 ~ 15:20	(院生セッション)	(院生セッション)	(院生セッション)	
報告者	朱 亮 (東洋大学大学院)	加藤和美 (北海学園大学大学院)	杉山正樹 (東洋大学大学院)	
報告テーマ	キャンオン電子経営者・酒巻久氏に与えたドラッカーの影響に関する研究	「チーム医療」専門技能の階層ー組織横断チームとしてのヨコ関係ー	複雑ネットワーク論からの視点によるメディカル・クラスターの有用性について	
コメンテーター	辻村宏和 (中部大学)	間嶋 崇 (専修大学)	佐々木利廣 (京都産業大学)	
司会者	佐久間信夫 (創価大学)	東 俊之 (金沢工業大学)	早川淑人 (札幌学院大学)	

15:20

閉会挨拶 日本マネジメント学会組織委員会委員長 辻村宏和

## 第66回全国研究大会開催校案内

本学（北海学園大学）は、1885年設立の北海英語学校を礎とする学校法人北海学園により1952年に北海道で初めての四年制私立大学として誕生しました。北海道の地に生まれた本学は「開拓者精神」を建学の精神とし、教員・職員・学生が創設期よりこの精神を掲げ続け、これを共有し、今日に至ります。現在北海学園大学には、経済学部、経営学部、法学部、人文学部（ここまで豊平校地）、工学部（山鼻校地）の5学部、それぞれに大学院（修士課程と博士課程）を加え、さらに法科大学院があります。本学の卒業生数は1900人、同窓生は7万5千人を超えています。

本学の特徴を紹介します。一つは、建学の精神から、本学は北海道の働く人の学びの場を2部教育として継続的に提供していることです。2部は工学部を除く4学部を設置され、校舎は夜になっても学生たちの声で満ち満ちています。また、1部2部の学生募集も青森までとなり、現在の学生の出身地のほとんどは道内になっています。北海道の人材教育に徹している点は1885年の昔から変わっていません。

もう一つ、お越しになるとすぐにお分かりになると思いますが、札幌駅より東豊線で3つ目の近さに加えて、地下鉄駅が本学6号館の地下にあるのです。札幌駅から来た場合、進行方向前方の階段を上がり改札を出ると、すぐに大学の敷地になります。大学校舎の地下に駅があるのは国内で本学だけです。きわめて地の利の良い大学ではありますが、今回ご利用の7号館は新しい校舎ではありますが、残念ながら唯一屋根でつながっておりません。

最後に、系列高校の一つが甲子園最多出場校にもなったことのある北海高校です。大学から見ると系列高校ですが、旧制北海中学からすると107年の歴史があり、高校の先生たちにすれば、大学は附属大学（という特徴を持っているの）だそうです。

皆様のお越しをお待ちしております。



アクセスマップ

## 理事会報告

平成24年6月24日(日)12時から、日本大学商学部において新理事会が開催された。主な議題は、新執行体制の決定に関してであった。会長に加藤茂夫氏(専修大学)、総務委員長に小畷正稔氏(東洋大学)、組織委員長に辻村宏和氏(中部大学)が決定した。また、他の役員や幹事などについては、常任理事会で決めていくことになった。

## 常任理事会報告

### 【第1回常任理事会】

平成24年6月24日(日)15時25分～(日本大学商学部)

#### 1、各委員の決定について

各種委員会委員、各地域別部会委員、本部幹事、監事などを8月中旬をめどに決定していくこととなり、次回会報にて一覧を掲載することとなった。

#### 2、大会委員会の発足について

第66回全国研究大会に向けて大会委員会を発足することとなった。7月中に統一論題の決定と、自由論題報告の募集を行なう。また、9月6日に開催予定の常任理事会でプログラムの確定が行われることが決められた。

### 【第2回常任理事会】

平成24年9月6日(木)11時～(日本大学商学部)

#### 1、全国研究大会の件

第66回全国研究大会のプログラムが確定された。

#### 2、会員入退会の件

入会(個人8名)、退会(個人6名)が承認され、合計:個人702名、法人4社となったことが報告された(平成24年9月6日現在)。会員数はここ数年、減少傾向にあるので、会員増加のための施策を今後検討することとなった。

#### 3、その他

##### ①各委員の決定について

各委員が正式に決定された(次頁に掲載)。なお、地方を含めた産学交流を活発化するために、組織委員会の中に産学交流小委員会が設置された。

##### ②機関誌委員会からの報告

従来発行している機関誌以外に、新しい機関誌発行の企画があることが報告された。

##### ③国際委員会からの報告

現在は韓国経営教育学会と交流しているが、今後の金銭的負担などを検討していくことが報告された。また、アメリカ経営学会経営教育部会との交流は、現在休止中であるが、今後は他の地域も含めて検討していくことが報告された。

# 日本マネジメント学会役員・名誉会員一覧

(任期：自平成 24 年 7 月 1 日 至平成 27 年 6 月 30 日)

(五十音順)

会 長	加藤 茂夫						
副 会 長	河野 大機	櫻井 克彦					
名誉会員	森本 三男						
顧 問	青木 武一	梅澤 正	大山 政雄	小川 英次	菊池 敏夫		
	河野 重榮	小林 規威	齊藤 毅憲	酒井 勝男	酒井 甫		
	高松 和男	筒井 清子	富田 忠義	西澤 脩	平田 光弘		
	逸見 純昌	増田 茂樹	三浦 康彦				
理 事	石井 泰幸	井上 善海	上野 哲郎	王 耀鐘	大平 義隆		
	小椋 康宏*	柿崎 洋一	小寫 正稔*	佐久間信夫	佐々木利廣		
	篠原 淳	新川 本	杉田 博	高橋 淑郎	田中 信弘		
	辻村 宏和*	手塚 公登*	中村 公一*	中村 久人*	萩原 道雄		
	樋口 弘夫*	福田 好裕	細萱 伸子*	堀田友三郎	堀越 勝		
	松村 洋平*	森川 信男*	山中 伸彦	吉村 孝司	(*は常任理事)		
会計監事	亀川 雅人	松本 芳男					
本部幹事	青淵 正幸	大野 和巳	小川 達也	清水 健太	須田 敏子		
	董 晶輝	當間 政義	間嶋 崇	水野 基樹			
事務局長	魚住 良三						

## 【各種委員会】

委員会	委員長	副委員長	委 員				
総務委員会	小寫 正稔	森川 信男	小沢一郎	董 晶輝			
組織委員会	辻村 宏和	松村 洋平*	青淵正幸 水野基樹	大野和巳 村井 淳*	福田好裕 吉村孝司	堀越 勝*	間嶋 崇
			(*は産学交流小委員)				
会報委員会	中村 公一	細萱 伸子	小野瀬拓	當間政義	山中伸彦		
国際委員会	中村 久人	石井 泰幸	相原 章	鈴木岩行	董 晶輝	文 載皓	
機関誌委員会	樋口 弘夫	柿崎 洋一	小椋康宏	鈴木岩行	須田敏子	山中伸彦	
山城賞委員会	小椋 康宏	佐久間信夫	河野大機	櫻井克彦	松本芳男		

## 【各地域別部会】

地域別部会	部会長	副部会長	幹 事	
北海道・東北部会	大平 義隆	杉田 博		
関東部会	手塚 公登		相原 章	石井泰幸
中部部会	堀田友三郎	蕎麦谷 茂	津田秀和	藤木善夫
関西部会	佐々木利廣	大東 正虎	曹 佳潔	陳 惠貞
中国・九州部会	篠原 淳	新川 本	大塚知弘	小野瀬拓

## 【各研究部会】

研究部会	部会長
マネジメント実践研究部会	小椋 康宏
日本・国際マネジメント研究部会	松本 芳男
マネジメント教育研究部会	加藤 茂夫

## ◇◇第65回全国研究大会参加記◇◇

東京急行電鉄株式会社

(山城経営研究所エグゼクティブフォーラム 18期)

村井 淳

表記大会が6月22日から24日までの3日間、東京・世田谷砦の日本大学商学部キャンパスで開催され、延べ200人以上の参加者が集い盛会のうちに終了した。統一論題は「ビジネス・モデルのパラダイム・シフト」。各セッションでは「デジタル・IT」「ものづくり」「医療経営」の各分野について、研究・実務両面からの幅広い問題提起が示された。第一セッションでは、加藤茂夫先生（専修大学）のベンチャー企業における組織研究の報告に続き、本年3月東証マザーズに上場したライフネット生命・出口治明代表取締役が講演した。質疑の中では出口氏の「現場に情報があるのだから、企業（組織）は下克上のほうがよい」「マニュフェストを実現することが100年後に会社を日本一にするのだ」といった発言が印象的であった。また第二セッションでは、杉田博先生（石巻専修大学）の震災被災地におけるBCP事例の詳細な報告があり、開発の鉄人・多喜義彦氏（システムインテグレーション代表取締役）からは、実際のビジネス構築を主題とする報告を聞いた。「決断をする人間がなによりも重要」「日本はガバナンスがしっかりした国として生きていくべき」という氏の主張には、会場からも「現場を知る人の発言の迫力は違う」といった声が聞かれた。第三セッションでは、高橋淑郎先生（日本大学）と神野正博氏（恵寿総合病院理事長）より、今後の医療ビジネスについての研究報告があり、特にICTを活用した医療戦略の可能性を実感させられる内容であった。また最終日の自由論題では、9名の報告者が、中小企業経営からキャリア形成、WLB、山城経営学研究など、広範な視点からのテーマ設定で報告があり、活発な意見交換が交わされた。どれも「日本マネジメント学会」の趣旨に相応しいテーマの報告であったと思う。今大会を振り返り、開催校として準備にあたられた松本芳男会長、大会委員長の高橋淑郎先生をはじめ多くの学生スタッフの皆さまにたいし、感謝とお礼を申し上げたい。

## ◇◇第65回全国研究大会 企業見学◇◇

四宮夕香（東洋大学大学院）

今回、東京都世田谷区砦の閑静な住宅街に隣接地にあるNHK放送技術研究所を訪問した。同研究所は、放送技術に関するわが国で唯一の研究機関として、豊かな放送技術を築くために開所され、次世代放送メディア、ユニバーサル放送サービス、高度番組制作技術、放送用デバイス・材料に関する研究を行っている。

ハイブリッドキャストは、放送通信連携サービスであり、携帯、パソコン、タブレット端末等と連携して利用できる。例えば、遠方の友達とテレビ画面上でコメント、またお勧め番組のやり取りができる。今回は、実際のテレビ画面を見ながらタブレット操作を実演して頂いた。

現在のハイビジョンの16倍の画素数からなり、音響にも優れたスーパーハイビジョンは、広大な向日葵畑などの臨場感あふれる映像を体感することができ、次世代放送における今後の発展に期待を抱かせるものであった。今回貴重な時間を割いて頂き、関係各部署の方々に厚く御礼申し上げます。

## ◇◇関東部会開催のご案内◇◇

開催校担当委員・関東部会長 手塚公登（成城大学）

●日 時：2012年12月8日（土）14:00～17:30

●場 所：成城大学3号館3階大会議室

●報告プログラム ※報告：40分、コメント・質疑20分

第1報告：14:00～15:00

報告者：文 載皓（富士常葉大学）

テーマ：「多国籍企業におけるCSR研究の類型化」

コメンテーター：三浦 庸男（埼玉学園大学）

司会者：山崎 秀雄（和光大学）

第2報告：15:10～16:10

報告者：田中 信弘（杏林大学）

テーマ：「ソフトローとしてのCSR国際規格のエンフォースメント

～国連グローバル・コンパクトとOECD多国籍企業ガイドラインを中心に～」

コメンテーター：鈴木 岩行（和光大学）

司会者：松村 洋平（立正大学）

（20分休憩：コーヒープレイク）

第3報告：16:30～17:30

報告者：清水 喜久（日本ユニシス）

テーマ：「企業経営における財務サービスの役割

～実際の企業活動を通して財務活動を俯瞰する～」

コメンテーター：坂井 恵（千葉商科大学）

司会者：清水 健太（東洋大学）

●参加費等：参加費 1,000円、懇親会費 3,000円

●お問い合わせ：関東部会長・手塚 公登（045-962-6181 tezuka@seiyo.ac.jp）

## ◇◇中部部会・活動報告◇◇

藤木 善夫（東海学園大学）

平成24年6月2日（土）14時00分より、第45回中部部会が経営行動研究学会、経営哲学学会との3学会合同により、東海学園大学栄サテライトで25名の参加者を得て開催された。第1報告は、小野琢氏（愛知産業大学）による「経営責任－経営自主体におけるマネジメント機能主義の視点から－」、司会・コメンテーターは櫻井克彦氏（東海学園大学）であった。小野氏は、CSR以前の経営責任に対する問題意識について、マネジメント機能主義の観点から企業経営者が果たすべき経営責任を見つめ直すことについて報告された。

第2報告は、遠藤秀紀氏（東海学園大学）による「財務報告の目的と資金概念の展開」、

司会・コメンテーターは小田切純子氏（滋賀大学）であった。遠藤氏は、資金概念の発展過程について、資金計算書の目的との関連から4つの時期に区分され、財務報告の目的に照らし、現代的意義について検討・報告された。

第3報告は蕎麦谷茂氏（愛知産業大学）による「日本の新卒採用システムについての一考察」、司会・コメンテーターは藤木善夫氏（東海学園大学）であった。蕎麦谷氏は、日本の新卒採用システムについて、①問題は何か、②変わらないのはなぜか、③その対策という3点を中心に北米のそれとの比較を中心に論を展開された。

それぞれの報告終了後には活発な質疑応答がなされ、引き続き、堀田部会長を議長として次回開催校等に関する議事が審議された。

報告会終了後、懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中会員間の交流が深められた。

## ◇◇中部部会開催のご案内◇◇

第46回中部部会は平成24年11月24日（土）に中京大学で経営行動研究学会、経営哲学学会との3学会合同により実施予定です。報告者・報告テーマは下記のとおりです。奮ってご参加ください。

報告（報告35分、コメント10分、質疑15分）

第1報告：水野 清文（奈良産業大学）

「食品関連企業にみる商品差別化戦略  
—地域特性を活かしたPB商品と製販連携—」

第2報告：速水 智子（中京大学企業研究所）

「英国の社会的企業と社会起業家に関する調査報告」

第3報告：加藤 里美（朝日大学）

「海外における日本流サービスの評価（仮題）」

なお中部部会事務局では、随時報告募集を行っております。報告を希望される方は、藤木善夫（東海学園大学 〒470-0207 みよし市福谷町西ノ洞 21-233 TEL;0561-36-5555, fujiki@tokaigakuen-u.ac.jp）までお知らせください。

## ◇◇関西部会・活動報告◇◇

関西部会長 佐々木利廣（京都産業大学）

平成24年7月21日（土）午後1時30分から関西大学100周年記念会館において、日本マネジメント学会の平成24年度第1回関西部会が開催された。

第一報告は、曹佳潔氏（京都産業大学大学院マネジメント研究科博士後期課程）「BOP ビジネスの戦略形成に関する一考察—住友化学の事例をもとに」であり、長期残効型蚊帳によるマラリア予防を通じてアフリカ（タンザニア）の貧困緩和をめざす住友化学のオリセット ネット事業がどのような過程を経て生まれ、組織内で公式に事業化されてきたかの分析結果を報告した。そしてバーゲルマンモデルをもとに、住友化学のケースが下からの自律的 BOP

ビジネス戦略プロセスと上からの誘導された BOP ビジネス戦略プロセスが併存しているケースであること、戦略コンテキストと構造コンテキストのうちの内的要因だけでなく外的要因が事業推進に大きな影響を及ぼしていることを強調した。

第二報告は、西之坊穂氏（大阪府立大学大学院経済学研究科博士後期課程）「日本型フォロワーシップスタイルの探索的研究」であった。リーダーシップ研究に比べまだ研究蓄積の短いフォロワーシップ研究を深めるために、先行研究のレビューと組織従業員へのインタビュー調査をもとに日本型フォロワーシップスタイルを探索的に抽出するという研究報告であった。フォロワーシップを組織のゴールをリーダーと共有し、そのゴールの実現に向かってリーダーに対して影響力を及ぼすことであると定義しながら、フォロワー自らの行動によって発揮するような日本型フォロワーシップの存在を提起した。すなわち、日本型フォロワーシップには、これまで先行研究で議論された積極的関与、クリティカル・シンキング、支援というカテゴリー以外に、上司を立てるというフォロワーシップのタイプが存在しているのではないかという問題提起である。

第三報告は、濱田初美氏（立命館大学経営大学院）「日本家電メーカーの凋落の真因」であり、日本の家電メーカーが総崩れ状態に陥った原因は何か、再生復活の道はあるか、さらに今後の復活に向けての処方箋を提起しようとした報告であった。オーナーシップ、ブランド、デジタル化対応、ビジネスモデル、企業文化など多面的な視点から海外企業と日本企業を比較しながら、最終的には再生復活のヒントは社内にあることが多いことを改めて強調した。そして隠れた社内資源をどのように活用するかと成長の苗をどのように育むかがポイントになると結論づけた。

BOP ビジネス論、フォロワーシップ論、日本の家電メーカー論は、いずれも時宜を得た報告テーマであり、今後とも研究が進展していくべき現代的課題である。各報告の後、司会者（佐々木利廣）からのコメントを経てフロアからの積極的質問や議論が行われた。とくに今回は2本の院生報告があり、若手研究者が新しいテーマに積極的にチャレンジしていることを窺わせる部会報告であった。報告会終了後会場近くのレストランで懇親会が行われ、会員間の交流が行われた。引き続き特に若手研究者の報告を募集していますので、幹事までご連絡ください。

## <<関西部会・報告者募集>>

下記の通り平成 24 年 12 月に開催します第 2 回関西部会の報告者を募集しております。

- 日 時：平成 24 年 12 月 1 日（土）13：30～16：45
- 場 所：大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）4 階  
〒540-0008 大阪市中央区大手前 1-3-49（TEL 06-6910-8500）  
JR東西線大阪城北詰駅 2 号出入口から西へ 550 m  
京阪天満橋駅・地下鉄谷町線天満橋駅 1 番出口から東 350 m。
- 懇親会：報告会終了後 17 時 30 分より例年通り懇親会も行います。  
会場は東天紅 OMM ビル店（谷町線天満橋駅 1 番出口すぐ、京阪天満橋駅東出口徒歩 1 分、TEL 06-6944-1015）を予定しています。
- 報告者の募集：ご報告を希望される方は、部会幹事までお知らせください。3 名に達し次第、締め切らせていただきます。
- 連絡先：部会幹事 陳恵貞（関西大学大学院）E-mail: eb8d101@kansai-u.ac.jp

## ◇◇マネジメント教育研究部会・活動報告◇◇

清水健太（東洋大学）

日 時：2012年7月28日 11:00～12:30

会 場：淑徳大学みずほ台キャンパス4号館101教室

報告者：櫻澤 仁

報告テーマ：「起業家教育の方法論

—大学の発想と産業界等の発想の対比を手掛かりとして—

本報告は、日本における大学や産業界における起業家教育について論じられたものである。まず、近年の大学教育における起業家教育の傾向として、地域連携などの要素が弱くなり、大都市圏で行われる傾向が強くなっていることを指摘した。また、起業家教育の内容や質は、担当教員の情熱・ネットワーク・企画力等によって大きく左右されている現状が報告された。

一方で産業界においては、メンターやコーディネーターが少数の有望な起業家を選別し、育成する「選別強化志向」が強まっていることが報告された。報告終了後には、参加者との活発な議論が行われた。

## ◇◇マネジメント実践研究部会開催のお知らせ◇◇

第4回マネジメント実践研究部会を開催いたします。多数の会員のご参加をお待ち申し上げます。

日 時：平成24年10月13日(土) 15:00～

会 場：東洋大学白山キャンパス6号館（教室名は当日掲示いたします）

参加費：300円

15:00～15:05 部会長挨拶 小椋康宏（東洋大学）

15:05～15:55 報告：中村公一（駒澤大学）「経営戦略の実践性—現状と課題—」

司会：河野大機（東洋大学）

16:05～16:45 討議 司会：小椋康宏

ご出席の場合は、下記連絡先までご連絡ください。

連絡先：小椋 康宏（日本マネジメント学会常任理事）

清水 健太（日本マネジメント学会幹事） [shimizuk@toyo.jp](mailto:shimizuk@toyo.jp)

## 正確な住所をお知らせください

機関誌、全国大会資料などの発送には宅配便を利用します。ご登録住所をご確認の上、住居表示の変更、住所変更などがありましたら、お手数ですが、速やかに学会事務局までご連絡下さい。

### 本欄～会員の最新刊著書を紹介します～

◎岩井清治著『ドイツ環境保全人材養成の史的研究』学文社 3,300円＋税

\*会員の皆さまの最新刊著書をご紹介したいと思います。事務局への献本（1冊）をお願い致します。

### 学会費について

#### 郵便自動払込をご利用ください

手続：イ) 郵便口座の取得  
ロ) 最寄りの郵便局に出向き『自動払込利用申込書』に記入

払込先加入者名：日本マネジメント学会  
払込先口座番号：00150-7-535064  
払込開始月：平成25年4月から  
払込日：毎年4月10日（再払込日 25日）  
なお、領収書が必要な方はEメールでご連絡ください。ぜひご協力ください。

○各種お問い合わせは、下記までお願いいたします。

#### 日本マネジメント学会事務局（担当：魚住 良三）

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4 株式会社山城経営研究所内  
TEL 03(3264)2100 FAX 03(3234)9988 E-Mail name@kae-yamashiro.co.jp

### 編集後記

学会も新体制のもとで本格的に動き出しました。今号は、全国研究大会のご案内とともに各研究部会の活発な活動を多く掲載できました。部会の活発化は学会活動の充実にもつながりますので、今後も部会活動の様子を掲載できればと思います。 会報委員会一同

発行 日本マネジメント学会  
(旧称：日本経営教育学会)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4  
株式会社山城経営研究所（担当：魚住）  
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988  
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp  
URL: http://www.nippon-management.jp/

印刷 株式会社ドットケイズ TEL 03-5206-1626  
E-mail: win@good-ks.co.jp